日本心理療法統合学会

第3回大会

神奈川大学横浜キャンパス

2023 年 3 月 18 日(土)

JSPI
Japanese Society for Psychotherapy Integration

日本心理療法統合学会　第 3 回学術大会

それぞれの同化的統合

プログラム・抄録集

会期

2023 年 3 月 18 日（土）

[redacted]

はじめに

日本心理療法統合学会第 3 回大会（研修会）にご参加いただけて本当に光栄です。大会長を務めます杉山です。ここでは本大会の趣旨とご一緒に目指したい未来について述べさせていただきたいと思います。

当会は私自身も正会員として加入している国際学会“Society for the Exploration of Psychotherapy Integration”の流れをくみ、日本の東西で心理療法の折衷、統合を目指して活動していたグループが融合する中で生まれました。私は当初は関西のグループと協働させていただいており、やがて関東のグループにも参加させていただきました。そのご縁で当会にも参加させていただいております。

活動が始まった当時（2002 年）は、関西のグループは抑うつの自己注目理論で有名な坂本真士（現日本大学・日本学術会議）、スキーマセラピーで有名な伊藤絵美（現洗足ストレスコーピングサポートオフィス・千葉大学）らとも協働しておりました。その当時の私の主なテーマは機能的な「科学者―実務家モデル」の構築と普及でした。特に C.Rogers のカウンセリングの方法論と認知行動療法の臨床社会心理学的な統合、という今日では一種の理論的統合と呼ばれるアプローチの研究を行っていました。

ここで、みなさまに一つ質問です。このような心理療法のあり方を巡る議論は何のためでしょうか。日々、実務に勤しんでおいでの先生方であれば答えは明白のことと思います。それは、対象者によりよい心理療法をお届けすることです。残念ながら、近年の信頼できるエビデンスによると、私たちは私たちが思っていたほど良いものをお届けできなかったのかもしれない…という事実が示唆されています。

この問題に対する打開策として、本大会では「同化的統合」をテーマとさせていただきました。同化的統合は方法論ではなく、心理療法実務者としての基本姿勢のようなものなのです。大会を通して、みなさまと同化的統合の姿勢を共有できたら幸いです。ぜひ、私達とご一緒してください。お待ちしております！！

日本心理療法統合学会第 3 回大会
大会長　杉山　崇

日本心理療法統合学会第３回大会
大会タイムテーブル

9:00	開場・受付 3号館エレベーターを降りて右手においでください		
10:00			
	総会（司会：学会事務局長　山蔦圭輔：神奈川大学）		3号館305
10:30 11:30	基調講演　（大会長　杉山崇：神奈川大学） 「それぞれの同化的統合に向けて」		3号館305
12:30	昼休憩　60分		
14:00	学会企画シンポジウム 「それぞれの同化的統合」 座長：巣黒慎太郎（神戸女子大学） シンポジスト：諸富祥彦（明治大学）・山蔦圭輔（神奈川大学） 三瓶真理子（EASE Mental Management ） 指定討論：吉岡千波（北野病院）		3号館305
14:15 16:15	公開SV 座長：沢宮容子（筑波大学） 事例提供：岩崎有紗（オフィスK・神奈川大学） SV：長谷川明弘（東洋英和女学院大学）・福島哲夫（大妻女子大学） 東畑開人（白金高輪カウンセリングルーム・慶應義塾大学大学院）		3号館305
16:30 18:00	会員企画シンポジウム 企画１：東斉彰（甲子園大学） 企画２：杉原保史（京都大学）	研究発表 佐藤大海（専修大学） 千賀則史（同朋大学） 菅瑠夏（横浜市）	3号館305 3号館306 3号館308
18:00 18:20	クロージングセッション		3号館305
18:30	懇親会		当日ご案内致します

基調講演

「それぞれの同化的統合に向けて」

第三回大会会長　杉山　崇

オンライン配信：ZOOM１，時間：10：30～11：30

心理療法は対象者を心理的に治療し、支援するという実務です。このような実務を学会という形で議論・研究する意味は数多くあると思います。本大会ではその一つとして、心理療法という営みを実務者の自己満足に終わらせないという実務における本来のあるべき姿を描いていきたいと思っています。そのキーワードが「同化的統合」です。この講演では「同化的統合」の基本姿勢とその進め方の実際を以下のコンテンツからご一緒に考えてみたいと思います。

１．同化的統合全史：なぜ同化的統合が必要だったのか？

残念ながら、心理療法の世界では長く各学派の専門家や指導者を中心に、どの学派が優れているか…という論点に関心が注がれていました。すでに 1930 年代に F-P スタディで有名なローゼンツヴァイクがその不毛さを示唆していたにも関わらず…。その結果、私たちに何が残ったのか考えてみましょう。

２．同化的統合の特徴

歴史的には同化的統合は理論統合から派生したとされています。理論統合との大きな違いはなにか？統合の柱となるものはなにか？何を考え方の拠り所とすればよいのか？、これらの問に対して、同化的統合ではどのような答えを出すのか、ご一緒に考えてみましょう。

３．同化的統合の一つの例

私自身の心理臨床の原点は今で言う発達障害児の臨床動作法を行いつつ、C.Rogers の方法論の普及を支えたメンバーの一人である村瀬孝雄に師事したことから始まります。その後、精神分析的心理療法や日本ではユング派とされるアプローチ、認知行動療法などを学びつつ、科学者―実務家モデルによるよりよい心理療法を志向しています。

「科学者―実務家モデル」は 1949 年にコロラド州で開催されたボルダー会議で臨床心理士のトレーニングモデルとして採択されたものです。私は C.Rogers の方法論と認知行動療法を私自身の心理学研究をハブとして統合する試みを行いました。この試みをはじめて公にした 2002 年の認知療法学会大会では「認知療法学会で Rogers を論じる男」と良くも悪くも驚かれたものでした。近年では神経科学（マスコミでは脳科学と呼ばれるもの）に基づく C.Rogers の方法論の評価に基づいた認知行動療法や対人関係志向のアプローチ（対人関係療法など精神分析新フロイト派）との融合を研究しております。fNIRS という脳活動をリアルタイムに測定できる機器も導入し、今後、ますますみなさまに役立つ知見をみなさまに還元したいと活動しております。僭越ながら、私を一例とさせていただいて、同化的統合の基本姿勢をご紹介できればと思っております。

学会企画シンポジウム

座　　長　巣黒慎太郎　神戸女子大学
シンポジスト　諸 富 祥 彦　明治大学
シンポジスト　山 蔦 圭 輔　神奈川大学
シンポジスト　三瓶真理子　EASE Mental Management
指定討論者　吉 岡 千 波　北野病院

オンライン配信：ZOOM１，時間：12：30～14：00

多様な心理臨床場面において，有益な対人支援や心理的治療を実現するためには，私たち支援者がより高い専門性をもって，日々研鑽し，価値ある専門的技能を提供する必要がある。こうした中，支援者のバックグラウンドや支援を行う環境により，用いられる心理療法は多岐に及ぶ。たとえば，伝統的な医療場面では精神分析（的心理療法），エビデンスを重視する場面では認知行動療法，短期的な問題解決を志向する場面ではブリーフセラピーなどがそれぞれ好まれることは経験的にも理解できるかも知れない。一方で，各支援者は，さまざまな環境において，またさまざまな支援対象者を目前にしてそれぞれのニーズを汲んだとき，ある理論を基盤にした唯一（単独）の心理療法のみを適用することなく，いくつかの心理療法を効果的に組み合わせて（あるいは他の理論的基盤を有する技法を用いて），よりコストパフォーマンスの高い支援を実現することを目指していることも事実である。そして，こうした姿勢は同化的統合と呼ばれる。

本シンポジウムでは，３名のシンポジストにより，それぞれがこれまでに実践してきた同化的統合について，その実際や難しさ，面白さなどについて自由に議論し，同化的統合の必然性や支援者自身の心理療法実践者としての成熟などにも触れる機会としたい。そして、これからの同化的統合について聴講の皆様とともに深く考えることを目的とする。各演題は以下の通りである。

諸富祥彦（明治大学）
『ロジャーズをもとにした統合的アプローチ
EAMA（体験-アウエネス-意味生成アプローチ）の実際』
三瓶真理子（EASE Mental Management ）
『試行錯誤の統合過程　５つの心理療法の統合と実践』
山蔦圭輔（神奈川大学）
『医療従事者支援における同化的統合と，心理専門職としてのジレンマ』

現地開催限定セッション

公開 SV

座　　長　沢 宮 容 子　筑波大学
事 例 提 供 者　岩 崎 有 紗　オフィスＫ・神奈川大学
コメンテーター　長谷川明弘　東洋英和女学院大学
コメンテーター　福 島 哲 夫　大妻女子大学
コメンテーター　東 畑 開 人　白銀高輪カウンセリングルーム・慶応義塾大学大学院

時間：14：15〜16：15

日本心理療法統合学会の大会における公開 SV は、まさに心理療法統合の実際に触れることや、さまざまな観点を知ることができる有用な機会といえる。

今回は、このような同じ心理療法統合の観点を共有しつつも、そのアプローチにおいて立場が異なる３名の実践家／研究者がコメンテーターとして、事例提供者の事例についてコメント／スーパーヴィジョンを行う。

事例提供者と各コメンテーターとの対話を通して、治療的な変化に関わるさまざまな要因やプロセスについての実践的な示唆が得られるだろう。また、参加者の皆様と事例提供者およびコメンテーターとのオープンな対話／ディスカッションを通して、事例の理解がさらに深まり、心理療法統合の意義について考える機会になることを期待したい。

会員企画シンポジウム１

「心理療法の本質を考える」

企画・司会　東　斉彰　甲子園大学
話題提供者　若井貴文　哲学心理研究所
話題提供者　東　斉彰　甲子園大学
話題提供者　加藤　敬　子ども心身医療研究所・診療所
話題提供者　吉田弘美　甲子園大学心理学研究科

オンライン配信：ZOOM１、時間：16：30〜18：00

各学派の心理療法は、それぞれの基本的概念や理論、方法論、介入技法を有しているが、そのよって立つ考え方は様々である。たとえば、精神分析、CBT、PCA を例に取ってみると、それぞれ無意識、顕在的行動・認知、人間性といった介入の対象とするものの相違、また心の構造、機能、現象などの心のあり方の違い、そして洞察や再条件づけ・認知変容、自己一致といった治癒メカニズムの相違などがそれである。そして、これらの要因の根底に、心をどのように見て、どのようにとらえるのか、ひいては人間存在をどのように認識するのかといった根本的問題も潜んでいる。また、効果や手順といったエビデンスを重視するか、それとも事例研究のような一回性を重視するのかという問題や、心理療法における科学性への問い、そして心理療法の主観性、客観性という大きな問題も付随するだろう。ここに、心理療法の本質は何なのかという問題が浮上する。

本シンポジウムでは、哲学、思想、文化論といった観点から、各心理療法のよって立つ基礎的な考え方を概観し、それらの相違点や共通点を論じ、それらが対人支援としての心理療法にどのように作用し、人びとにいかなる影響を与えるかについて論じることによって、心理療法の本質を考える機会としたい。そのような考察が、心理療法の統合や折衷の方向性に何らかの示唆を与えることにより、現代における心理療法統合の必要性や有効性を論じることに資することを期待したいと考える。

会員企画シンポジウム２

「科学的」な心理学は客観的で普遍的で価値中立的なのだろうか？

企　画　者　杉原保史　京都大学
司　　会　茅野　綾子　国立がん研究センター
話題提供者　五十嵐靖博　山野美容芸術短期大学
話題提供者　和田香織　カルガリー大学

オンライン配信：ZOOM２、時間：16：30〜18：00

心理療法やその背後にある心理学は「客観的で普遍的な科学であり、文化や価値からは独立したものである」という見方がある。このような見方は、「心理療法は科学的な知見に導かれて普遍的な仕方で適用されうるものだ」という考えを導きやすい。

他方、心理学や心理療法は文化に埋め込まれたものであり、心理療法は文化的実践だという見方もある。もしそうであるならば、心理療法の基礎にある心理学を普遍的に正しいとする見方に基づく心理療法の実践は、クライエントの文化を否定することになり、クライエントを害してしまう危険性があるということになる。

心理療法の統合においては、心理療法を個々のクライエントに適合させることが重要な関心事である。それゆえ「『科学的』な心理学は客観的で普遍的で価値中立的なのか？」という問いは心理療法の統合にとって非常に重要なものである。

心理療法の多くは欧米文化圏において発展してきたため、暗黙のうちに欧米文化における主流の価値が反映されている可能性がある。心理支援の領域においては、特にフェミニスト・カウンセリング、多文化間カウンセリング、社会正義カウンセリングにおいて、こうした可能性が深く考察されてきた。心理支援に限定せず、心理学全体に目を向けてみると、批判心理学は、主流の心理学が「客観的で科学的な人間一般の心理学」のよそおいのもとで、特定の文化的価値を自然化し、人々にときにマイナスの影響を及ぼす可能性に注目し、それを乗り越えるための議論を重ねてきた。

本シンポジウムでは、杉原の趣旨説明の後、五十嵐は批判心理学の観点から、和田は社会正義アプローチの観点から、それぞれ話題提供する。その上で、みなさんと一緒にこの問いについて考えてみたい。

ワークショップ（フルオンデマンド配信）

WS１　多次元的アプローチ
WS２　ロゴセラピー
WS３　目の前に被害者が現れたら

ワークショップはフルオンデマンドで開催致します。
大会ホームページ→動画アーカイブ[redacted]にて、ID ならびにパスワードをご入力いただくことでご視聴いただけます。
ID ならびにパスワードは、後日、大会参加者宛にメールにて通知致します。

ワークショップ１
講師　末武康弘（法政大学）・小田友理恵（法政大学）
テーマ：多次元的アプローチ

ワークショップ２
講師　草野智洋（琉球大学）
テーマ：ロゴセラピー

ワークショップ３
講師　岡本かおり（被害者支援相談員　清泉女学院大学人間学部）
テーマ：目の前に被害者が現れたら

研究発表

座　　長　巣黒慎太郎　神戸女子大学
発　表　者　佐藤大海　専修大学心理教育相談室
発　表　者　千賀則史　同朋大学社会福祉学部
発　表　者　菅　瑠夏　横浜市こども青少年局青少年センター

オンライン配信：ZOOM３、時間：16：30～18：00

研究発表１　勤務開始初期にスクールカウンセラーは学校とどのように関わるか
学校システムへのジョイニングという視点からの考察

佐藤　大海　専修大学心理教育相談室

研究発表２　子ども虐待事例への心理社会的統合アプローチの理論家の試み

千賀　則史　同朋大学社会福祉学部

研究発表３　ひきこもり傾向と家庭内暴力のあるケースに複数の面接方法と様々なワークを導入した事例について

菅　瑠夏　横浜市こども青少年局青少年相談センター